

(九) きじめ床 (木船床・きぶねどこ)

西林木町東組と奥之谷町内の境界あたり、国道四三一号の北方にある小高い山の中程に広々とした平坦な所があります。そこが「きじめ床」と呼ばれている地帯です。

古老の話しでは、近くに通称「御所山」もあり、平安時代の荘園があった頃には「貴船床」と言う字が使われていたとの事です。

京都・鴨川の水源地のあたりに古来より水の神様として崇敬を集めている有名な「貴船神社」があり、昔、その「貴船神社」から、林木にお姫様が嫁いで来られたとの伝説があります。

また、「きじめ床」の近くの通称「鍛冶屋谷」の上流に水源池があり、水神さんが祀ってありますが、今は集落の簡易水道の水源地になっています。

「きじめ床」という呼称は、お姫様がお住まいになられた林木のその地帯が「貴船床」と言われるようになったのではないかと話しています。

「貴船神社」の分霊社は全国におよそ五百社あり、近くでは雲南市加茂町南加茂に「貴船神社」が鎮座されています。

また、林木の「きじめ床」からは鶯が巢城への正道があり、この場所にひな壇と呼ばれる階段状に整地された所がありますが、そこは鶯が巢城の兵糧庫を守るため構築されたものだそうです。

天文十二年(一五四三) 大野・大垣等の尼子方諸武将が大挙し

て鶯が巢城を攻撃し、鶯が巢城が落城した時、ここに立ち並んでいた米庫を鶯が巢城兵が全て焼き尽くしたと言い伝えられています。「きじめ床」の西側の御所山の麓に、毛利軍が尼子攻めの際、本陣を置いたとの記録が残っています。

いまでも草刈をした時、鎌の先で掘ると焼けた米が見られると地元の人が話してくれました。  
いまでは「きぶねどこ」と地域の人は呼んでいます。

